

U20b 電磁気がマイナスの宇宙からビッグバンになり、インフレーションに成り背景放射に成った過程と宇宙の形と、インフレーションが存在した事の証拠

小堀しづ

マイナスの宇宙からプラスの宇宙に成るとき、ビッグバンが起きた。その時、電子のラブに成るはずの電磁気1個のエネルギーは $1.256 \times 10^{-9} \text{J}$ で、軌道は $9.817 \times 10^{-33} \text{m}$ です。陽子のラブに成るはずの電磁気1個のエネルギーは $2.306 \times 10^{-6} \text{J}$ で、軌道は $5.347 \times 10^{-36} \text{m}$ です。この電磁気が真空の絶対0℃の空間に放出した。電磁気は場のエネルギーに自分のエネルギーを合わせて存在する。電磁気のエネルギーは $3.769 \times 10^{-23} \text{J}$ に成り、軌道は $3.271 \times 10^{-19} \text{m}$ に成った。この場の温度は2.73Kです。これがインフレーションです。ビッグバンの時10-24mの公転軌道であった電子のラブの公転軌道は地表で、 $1.058 \times 10^{-10} \text{m}$ に成った。公転軌道は、 $1.058 \times 10^{-10} \text{m} \div 10^{-24} \text{m} = 1.058 \times 10^{14}$ 倍に成った。空間は、 1.058×10^{14} 倍に成った。インフレーションで、 $3.269 \times 10^{-19} \text{m}$ の電磁気の軌道は、 1.058×10^{14} 倍に成り、 $3.269 \times 10^{-19} \text{m} \times 1.058 \times 10^{14} = 3.459 \times 10^{-5} \text{m}$ に成った。軌道は波長に成り2倍、更に線なるので3.14倍になる。 $3.459 \times 10^{-5} \text{m} \times 6.28 = 2.172 \times 10^{-4} \text{m}$ になった。背景放射の分布図は、宇宙の初期の物ではなく、現代の宇宙の形を示す。背景放射の電磁気の温度が等しく、一様に2.73Kである事はインフレーションが存在した事の証拠です。もし、インフレーションが存在しなかったならば、陽子のラブに成るはずの電磁気1個のエネルギーは、現代でも、電子のラブに成るはずの電磁気1個のエネルギーの1836倍であるはずで